

第4章 地域行動計画(重点行動)

1 地域行動計画 (重点行動)

彦根市環境基本条例の第 13 条では、地球環境の保全に資するために、持続的発展が可能な社会の実現に向けた地域行動計画を策定するとともに、計画には地球環境保全に関する基本方針、地域目標、行動指針、その他の事項を定めることが記載されています。

環境保全に関する取組と地球環境保全に関する取組は重複するものが多く、一体的に取り組むことが重要であることから、環境基本計画の以下の項目を地域行動計画にも同様に位置づけることとします。

また、地域行動計画では、環境基本計画で示した 5 つの基本目標の中で特に持続的発展が可能な社会の実現に貢献する方策や取組を「重点行動」として取りまとめ、実践していくことで、環境基本計画の効果的な推進や地球環境の保全に資することにつなげます。

地域行動計画	対応する環境基本計画の項目
基本方針	=5 つの基本目標 基本目標1 人・自然・文化が調和するまちづくり 基本目標2 安全・安心が実感できる快適なまちづくり 基本目標3 水や資源の循環が進んだまちづくり 基本目標4 未来の地球を守るためのまちづくり 基本目標5 参加と連携による人づくり・まちづくり
地域目標	=環境像 歴史と文化が暮らしにとけこみ ゆたかな自然と共に歩む ふるさと彦根 ～ 川、湖、みどりと歴史のまちを未来へ ひこね環境 SDGs ～
行動指針	=12 の基本施策 水とみどりの保全と活用、生物多様性の保全、彦根らしさの保全と活用、環境リスクの低減に向けた取組の推進、美しいまちを守るための取組の推進、3R の推進、環境にやさしい消費の推進、森・川・里・湖の水のつながりの保全、緩和策の推進、適応策の推進、人づくり・仕組みづくり、情報の共有化の推進
その他の事項 (重点行動)	(地域行動計画で新たに定める)

環境基本計画

----- 5つの基本目標 -----

持続的発展が可能な社会の実現に貢献する
重点的な方策・具体的な取組

人・自然・文化が調和するまちづくり

安全・安心が実感できる快適なまちづくり

水や資源の循環が進んだまちづくり

未来の地球を守るためのまちづくり

参加と連携による人づくり・まちづくり

地域行動計画（重点行動）

- ・地域行動計画（重点行動）
- ・重点行動のテーマと進め方

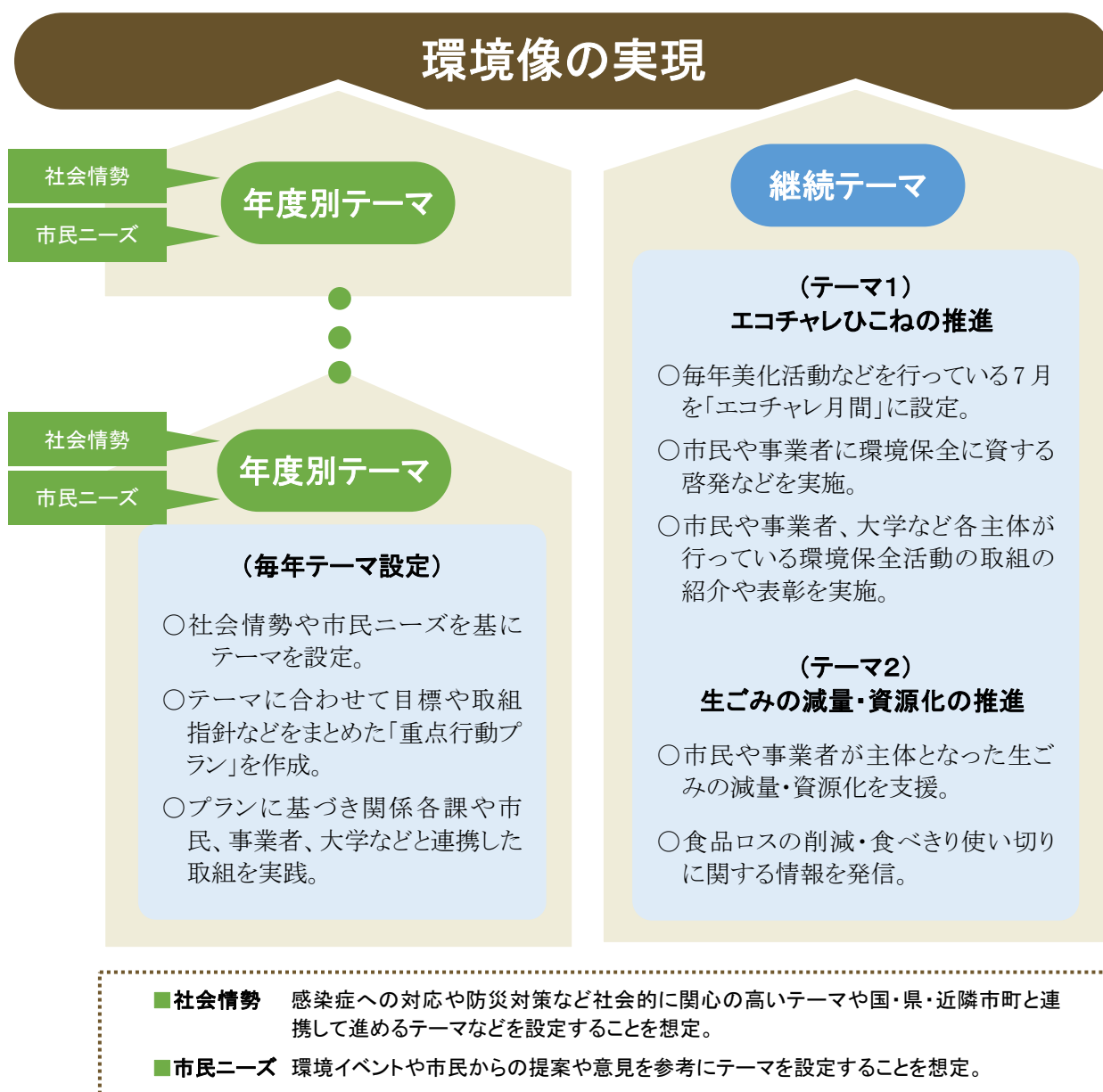
環境像の実現（地球環境の保全）

【地域行動計画の位置づけ】

2 重点行動のテーマと進め方

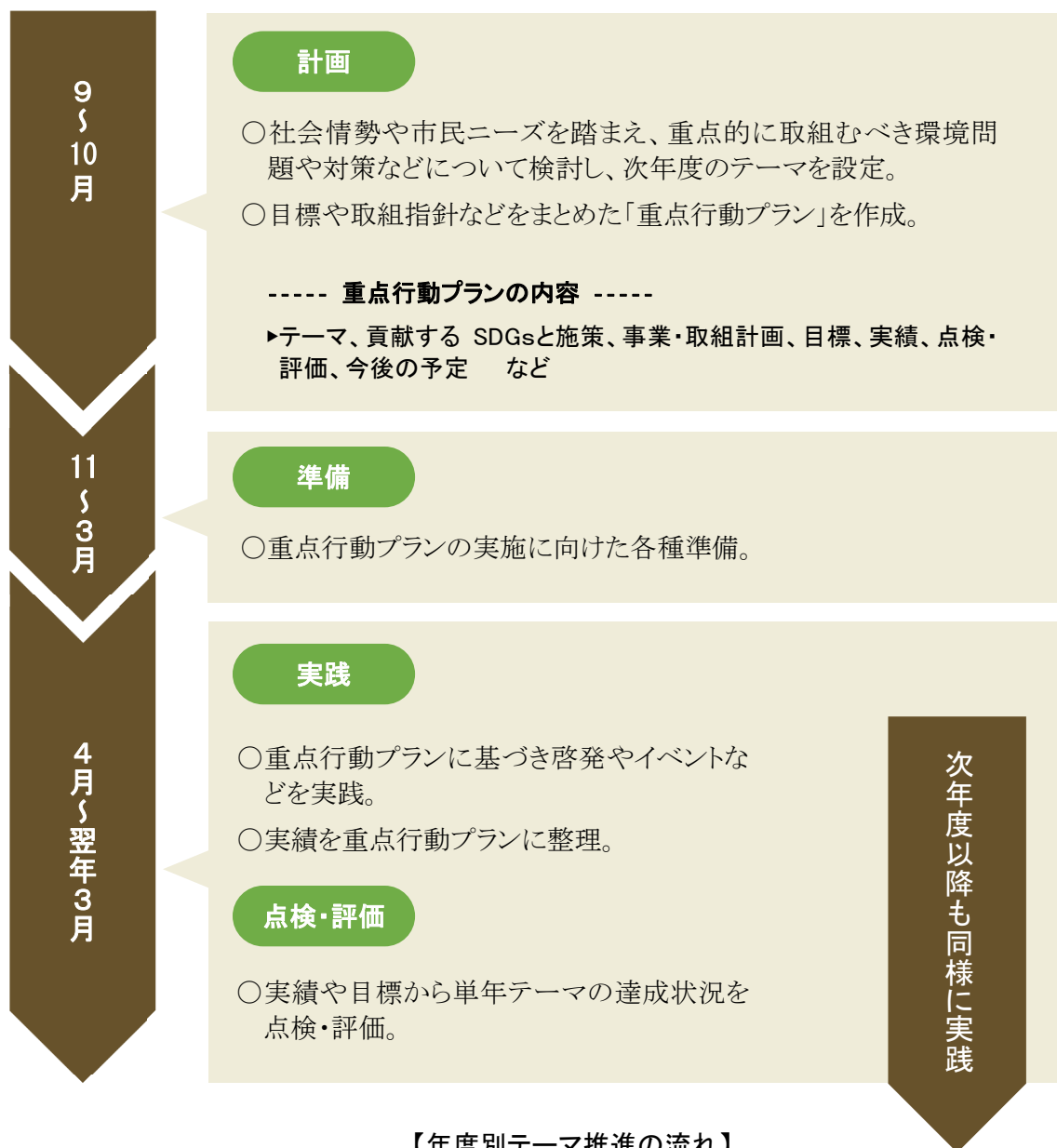
本計画では、環境に配慮した行動の普及や持続可能な社会の構築に向けて、環境基本計画で示した 5 つの基本目標の中で特に持続的発展が可能な社会の実現に貢献する方策や取組を「重点行動」として取りまとめ、短期的・集中的に進めます。

なお、環境に関する問題は年々多様化・複雑化していること、また、対策も柔軟性や素早さなどが求められていることから、重点行動は、計画期間中一貫して進める「継続テーマ」と、社会情勢や市民のニーズに応じて毎年テーマを定め進める「年度別テーマ」の 2 種類を設け、柔軟に取組を進めます。



年度別テーマ

年度別テーマの推進にあたっては、環境イベントや市民からの提案や意見などを参考に、市がテーマを設定します。また、取組内容や目標などをまとめた「重点行動プラン」を作成し、このプランに基づき関係各課や市民、事業者、大学などと連携して社会情勢や市民ニーズに対応した取組を進めます。



【年度別テーマ推進の流れ】

年度別テーマ例：荒神山いきものがかりプロジェクト

「荒神山」は、JR琵琶湖線や湖周道路など主要な交通網から見ることのできるシンボリックな風景であるとともに、森林浴や眺望を楽しめる市内屈指の散歩コースでもあり、本市のシンボリック的存在になっています。

地域住民や地元の小中学生、観光客などを対象に、荒神山のウォーキングや観察会を実施し、参加者に本市の豊かな自然を感じてもらうとともに、健康づくりや荒神山の生きもののつながりについて学ぶ機会を提供します。

また、荒神山の魅力をまとめたリーフレット(チラシ)を作成し、シンボリック的存在としての愛着や自然保護活動への参加意識の醸成を図ります。



【秋の荒神山】

キーワード

荒神山/ウォーキング・観察会/環境教育・環境学習/生物多様性の保全/情報発信

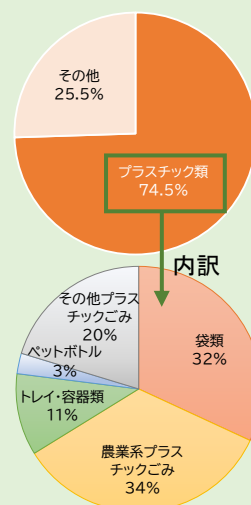
※テーマと内容は例であり、内容などを変更して実施する可能性があります。

年度別テーマ例：琵琶湖はきれいですか？

滋賀県が令和元年度(2019 年度)に実施した琵琶湖におけるプラスチックごみ実態把握調査によると、湖底ごみの約 75%が袋類や農業系のプラスチックごみという結果が報告されています。

これらのプラスチックごみは、身近な河川に捨てられたごみが琵琶湖に流れ着いたものであり、本市においても琵琶湖周辺の生態系への影響や景観の悪化などが懸念されています。

市民や事業者などと連携してまちなかの美化活動や漂着ごみの調査を進めることで、ごみ問題に関する意識の醸成や琵琶湖や海の保全にもつなげます。



【湖底ごみの内訳】

資料：琵琶湖におけるプラスチックごみ実態把握調査(滋賀県)

キーワード

琵琶湖/プラスチックごみ/漂着ごみ/美化活動/流域全体の保全

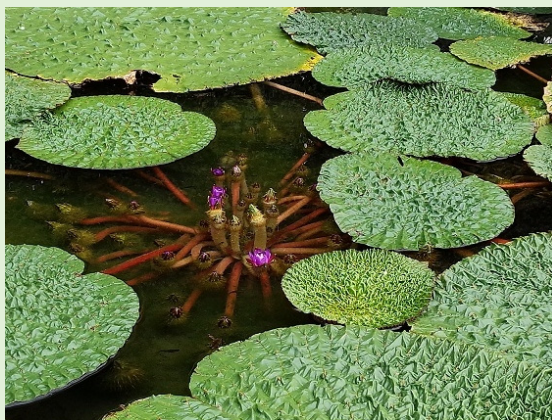
※テーマと内容は例であり、内容などを変更して実施する可能性があります。

年度別テーマ例：歴史と文化の香りを育むプロジェクト

オニバスは彦根市の天然記念物に指定されている貴重な水生植物で、彦根城の築城当時から堀に生育していたと伝えられています。

彦根自然観察の会「彦根城オニバスプロジェクト」では、この貴重で歴史を感じられるオニバスを保護する活動を続けています。

今後、新たに整備された新庁舎の前庭池を活用した移植・栽培や展示などさらなる活動を進めることで、本市の貴重な自然の保全につなげます。



【オニバス】

キーワード

オニバス/彦根城オニバスプロジェクト/貴重な植物の保全

※テーマと内容は例であり、内容などを変更して実施する可能性があります。

Topic

彦根城オニバスプロジェクトとオニバス

彦根城オニバスプロジェクトでは、貴重なオニバスがいつまでも彦根城のお堀で咲き続けられるように、中堀に自生するオニバスの生育環境の整備やオニバスに関する勉強会、パネル展示などの広報活動を行っています。

オニバスが自生する彦根城中堀では、平成 18 年(2006 年)以降、オニバスは減少傾向にあり、平成 25 年(2013 年)には生育が全く見られないなど危機的な状況にあります。

この原因として、彦根城オニバスプロジェクトと彦根市、滋賀県立大学が協働で調査したところ、中堀に広く生息する外来種「ミシシippアカミガメ」がオニバスを食害し、生育を阻害していることが示唆されました。

それ以降、オニバスの保全に向けて、ミシシippアカミガメの食害への対策なども進めています。



【平成 18 年時点のオニバス自生地】
(オニバスとともにヒシやハスも繁茂している)



【平成 25 年時点のオニバス自生地】
(オニバスとともにヒシやハスも消失している)

継続テーマ

継続テーマの推進にあたっては、本計画の推進に大きく貢献する重点的な取組を設定し、計画期間中一貫して重点的に進めます。

エコチャレひこねの推進

SDGs
貢献する



基本施策
貢献する

- 水とみどりの保全と活用
- 美しいまちを守るための取組の推進
- 3Rの推進
- 緩和策の推進
- 適応策の推進
- 情報の共有化の推進

滋賀県では、7月1日を「びわ湖の日」と定め、多くの県民が美化活動などの環境保全活動に参加してきました。

本計画では、こうした美化活動が行われている7月を彦根市独自の環境月間「エコチャレ月間」と定め、市民や事業者、環境保全に資する取組の一つ以上実践していただくことを呼びかけるとともに、市民や事業者、大学など各主体が行っている環境保全活動の取組の紹介や表彰を通じて、自分たちが暮らす地域の環境の大切さについて今一度考えていただくとともに、環境に関する意識の醸成につなげます。



キーワード

びわ湖の日・エコチャレ月間/環境を担う人材の育成/環境情報の発信/環境に関する意識醸成

市の取組例

- 「エコチャレ月間」に環境に関する情報を発信し、市民や事業者の環境に関する意識醸成を図ります。
- 市民や事業者、大学などが行っている環境保全活動の取組の紹介や表彰を行います。

市民・事業者の取組例

- 「エコチャレ月間」に各地域で行われている美化活動に積極的に参加・協力しましょう。
- 市が発信する「ひこねの環境」や環境保全活動の取組紹介などについて情報を収集し、自分たちが暮らす地域の環境や環境を守る取組について学びましょう。
- 普段行っている環境保全に関する活動や事業内容について、市内外に情報を発信してみよう。
- 「エコチャレ月間」に環境保全につながる行動の一つ以上実践してみましょう。

生ごみの減量・資源化の推進

SDGs
貢献する



基本施策
貢献する

- 水とみどりの保全と活用
- 3Rの推進
- 環境にやさしい消費の推進
- 人づくり・仕組みづくり

生ごみは、高価な機器や電力などを使用しなくても、簡単に堆肥化などとして再生利用することができる有用な資源であり、本市では、市民団体と連携して、微生物を活用した簡易生ごみ処理(ボカシ肥料作り・配布)を継続して行っています。

本計画では、この市民団体と連携した生ごみ処理を継続して行うことで、生ごみの減量・資源化の普及に努めるとともに、環境保全に関する意識醸成や地域住民の交流の場としての活用を進めます。

また、生ごみの減量・資源化への効果が期待できる食品ロス削減の取組について、誰もが実践できる分かりやすい情報を発信することで、普及を図ります。

※生ごみの堆肥化など、環境保全活動を行っている市民団体については資料編で紹介しています。



キーワード

生ごみ・ごみの減量・資源化/循環型社会の構築/環境保全に関する意識醸成

市の取組例

- 微生物を活用した簡易生ごみ処理活動に関する情報を発信し、市民や事業者の参加・協力やさらなる普及を進めます。
- 食べられるのに捨てられてしまう「食品ロス」を削減するため、料理の食べきりや食材の使い切り、必要な分だけの購入など、市民一人ひとりができることを情報発信して呼びかけ、広めます。

市民・事業者の取組例

- 生ごみの堆肥化や微生物を活用した簡易生ごみ処理活動に積極的に参加・協力しましょう。
- 生ごみから作ったボカシ肥料は、積極的にガーデニングや野菜作りなどに活用しましょう。
- 減農薬・化学肥料など環境に配慮してつくられた食材や地域でとれた食材を利用しましょう。